

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100277		
法人名	株式会社ひやみかち小祿		
事業所名	グループホームひやみかち小祿		
所在地	沖縄県那覇市字小祿172番地1		
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で地域との交流がうまくできていないが、今年こそはコロナが収束して認知症カフェ「ゆんたく喫茶」の再開ができればと思います。自治会主催の正月行事「旗頭」の道ジュネーに毎年ひやみかちの駐車場に行っています。昨年はコロナウイルス感染対策で中止となり、今年は開催できました。久々の地域との交流となり、入居者の方は満足され終始笑顔でいっぱいでした。地域との交流をはじめ開かれた事業所を目指し取り組んでいる所です。理念の周知徹底を図り、入居者中心のケア、認知症になっても、最期の時までその人らしく過ごすことができる支援を心掛けています。最期はお家に帰りたいと入居前に子供達に伝え、それが叶えられました。ご本人とご家族の思いに寄り添い、医療と居宅介護支援事業所との連携が取れ在宅支援ができた事に感謝しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地の中で、所在地区が一望できる高台に立地している。コロナ感染予防対策で、外出や地域との交流など制限を余儀なくされているが、今年は地域の正月行事「旗頭」道ジュネーを事業所の駐車場で開催することが出来、近隣住民との交流再開となった。事業所は理念に掲げている「家庭的な雰囲気」作りに向け、利用者や家族との信頼関係を大切にし、個々の出来ていることの継続や出来ることを見出し、自立支援に取り組んでいる。また「ひとり一人の尊厳を大事」に利用者、家族からの意向に寄り添い、カジマヤー祝いや終末期を在宅へ移行調整し、共に看取りケアを実践するなどやりたいことの実現に取り組んでいる。就業環境においては、管理者は職員が話しやすい雰囲気を作り、また楽しく学べる勉強会の工夫、人事考課による評価やチューター制度を取り入れ、不安軽減や意欲の向上に繋がる働きやすい環境の体制づくりに尽力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時、全体ミーティング、カンファレンス日々のケアの場面の時には、常に意識して職員へ理念にまつわる話をしている。	次年度に向け、開設時に作成した基本方針の一部を利用者の状況に合わせ検討している。職員は定例ミーティングなどで理念を振り返り、家庭的な雰囲気作りを大切に出来る様、利用者や家族との信頼関係作りを意識し取り組んでいる。今年度、開設以来初めて、終末期を迎えた利用者の意向に沿って、在宅介護への支援を移行調整し、多職種連携を実践した事例がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中これまで通りにはいかなかったが、小さな事だが、近隣との交流が途絶えることなく継続できている支援がある。	法人の理事が自治会役員で、地区の清掃や行事など積極的に参加している。今年も青年会による正月行事「旗頭」道ジュネーが事業所の駐車場で開催され、利用者や近隣の住民が見学し交流に繋がっている。また定期的に近隣住民がボランティアとしてチラシのゴミ箱折りや肩たたき棒、夏はくばの葉で内輪作りに来所あり、繋がりの継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で認知症カフェ「ゆんたく喫茶」は中止としている。 令和3年3月より共用型認知デイを開所した。那覇市の新聞を見て利用に繋がった方が1人。知り合い通して2人現在利用者が3人となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり、自施設で職員での開催となった。那覇市からの指導もあり、委員の意見が拾えるようにFAXで意見を求めた。オンライン開催はできなかったが、これから取り組んでいきたい。	運営推進会議は2か月に1回、利用者、家族代表、行政、地域代表、知見者が構成員で、奇数月に設定し開催している。コロナ禍に伴い、書面郵送にて、サービスの質の向上に活かせるよう意見や評価などをFAX返信にて求めている。直接、情報共有や意見交換が出来る様に、オンラインでの開催も試みたが実施出来ず、今後の検討構築を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染者がでたため運営推進会議議事録に詳しく載せる工夫をした。 「看取り」をご家族の希望で在宅支援することができた。ご家族の心配は万が一、看取りの期間が長引いたとき再度入居できるかとのことだった。那覇市へ相談事例がないとのことで見送った 退去して在宅介護へ繋いだ。	市職員と地域包括支援センター職員は運営推進会議の構成員でもあり、活動状況などを報告し、意見や助言を得ている。また管理者は、加算取得の関する確認や見取り支援などについて、積極的に市へ相談、助言を得、協働で課題解決や円滑な運営に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が入居者に対する声かけや行動が身体拘束、虐待行為になっていないか常日頃から意識して関わるようにしている。現在は身体拘束0であるが、センサーを使用しないと転倒防止できないケースが1人おり、センサーに頼らず見守りができるように取り組んでいる所である。身体拘束廃止委員会の議事録を整備し、運営推進会議で報告できるようにする。	身体的拘束等の適正化のための指針があり、3か月に1回、身体拘束廃止委員会「ひやみかち安心・安全管理委員会」を開催している。今後は構成メンバーに第三者を含め運営推進会議と一体的な運営を希望する。エスケープ発生に対しては、従来通り施錠は行わず、見守り体制の強化、連携などリスクマネジメントの徹底を図り、不適切ケアを未然に防止している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修に参加できるようにしている。身体拘束、虐待等は、認知症の人の尊厳を守る事で防止できる事を伝えている。又職員の心身の状態や、身体拘束、虐待の行為が閉鎖的にならないように雰囲気作りにも気を配っている。開かれた事業所にすることを心がけている。	今年度9月、2月に高齢者虐待防止について研修参加し、理念に掲げている「ひとり一人の尊厳を大事に」出来る様に日々のケアの振り返りや見直しを図っている。また事業所独自の「ゆんたく喫茶」にて外部からの参加機会を持ち、開放されたケアへ繋げている。職員の疲労やストレスによるケアの把握について、今後、ストレスチェック導入を検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての勉強会が少ないのでこれから実施するところです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を取り十分に説明をおこなっている。ひやみかちの方針を伝え協力をしている。介護保険の法改定等がある時は文書で伝え疑問がある時は何時でも聞いて下さいと伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしているが、コロナ禍となり運用になっていない。タブレットを使用することでご家族との連携が取りやすくなった。入居者の日頃の様子等伝えることができますようになった。	利用者へ毎日「今日はどうしたいか」を確認し、やりたいことを大切にしている。家族へは玄関先に設置した意見箱がコロナ禍に伴い運用出来ない為、電子媒体を活用し、早期に連絡事項や写真、動画での状況報告の工夫をし、要望や意見が汲み取りやすくなるように努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、日頃より介護の現場にでて積極的に職員の意見を聞くようにしている。特にコロナ禍になり、行事が自粛となり職員からの要望があり、感染対策を行いながらのドライブやかじまや一祝いを小規模で行った。	管理者は、定例ミーティングや日頃から職員が意見を言える様に話しやすい雰囲気作りに努めており、職員からも相談しやすいと評価を受けている。環境面においては、老朽化した手すりの修理やウォシュレットの設置など反映されている。また昨年3月より認知症デイサービス運営開始にあたる不安に対し、相談・協議を行い、昇給など意欲向上や質の確保に取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働管理事務所と契約しているので、社会保険雇用保険や、職員が大病で1年半休職中、傷病手当がスムーズに利用できた。無事職場復帰しました。	人事考課制度による職員の目標確認や実績を評価し、昇給ややりがいが持てる環境整備など実施している。チューター制度を取り入れ、新人職員に入職1か月間、主任を中心に職員が指導にあたり、必ず1日の終わりに15分間の振り返りを行うなど働きやすい職場作りに努めている。また週1回フリーランス雇用にて、レクリエーションなど活動の充実や職員への意欲向上を図っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモート研修がスムーズに利用できなかったが、現在はできるようになった。働きながらのトレーニングは、介護主任を中心に先輩職員は実践しながら後輩を育てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で運営推進会議が開催出来なかったのので包括センター小祿、グループホームさつき荘さんから意見書を出してもらった。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、ケアマネ等情報収集を行いご本人の状態、ADL状況を把握している。実調査時にご本人より困っていること、不安に思っていることどの様に過ごしていきたいか、お話ししやすい空気作りも意識して関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを踏まえ担当スタッフが細目に連絡を取り合うよう心がけている。入居者3人に対してスタッフ2人の担当制にしてある連絡ノート、タブレット使用し、他のスタッフにも周知して共通認識できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナウイルス感染対策、緊急事態宣言があったため、訪問看護、訪問診療、療養管理指導(薬剤師)訪問歯科、訪問マッサージは、ホームでの対応を一時中止とした。ご家族と相談を行いサービスの利用に繋げている。個別ではなく、フリーランスで介護とマッサージを毎週月曜日行っている。介護レクはとても人気があり、特に笑顔が見られる。アロママッサージも人気がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のペースに合わせて冗談を言いながら笑い合える関係づくりに努めている。いつも笑顔であることにこだわり、ご本人に寄り添いゆっくりと話を聞くようにしている。洗濯干し、洗濯たたみ、もやしのひげ取りお茶葉いれ等できる事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事はご家族参加で行っている。特に年2回の大掃除、親睦会は、日頃の生活の様子が伺えご家族、入居者も満足されている。今年度はコロナウイルス感染対策のため中止になった。タブレット使用してご家族とのやり取りに力を入れている。小さな事でも家族と一緒に考えられるようになりより良いケアに繋がっている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の許可を得た上で友人、知人の面会や電話、手紙のやり取りができるように工夫している 仲の良い方同士同じテーブルにする等、レクリエーションは参加されている方すべてに関われるように配慮している。	利用者、家族よりアセスメントや日々の会話から地域社会との関係性の把握に努めている。現在はコロナ禍に伴い、自粛中にて直接の交流は難しい状況だが、家族の許可のもと友人や知人と電話、手紙のやり取りにて関係性を継続している。また時折り、近隣の馴染みの公園まで散歩へ出掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍のためテーブルを囲んでのビデオ鑑賞、ゲーム等ソーシャルディスタンスを取り感染対策を行い実施している。認知度にレベルの差があり偏見を持たれる事もあるができるだけ良い方向にフォローして一緒に楽しく過ごせるよう工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にその後の不安、相談があれば対応することに努めている。看取りを在宅で希望されたご家族を応援することができた。訪問診療を利用されていたので在宅に帰っても継続して利用することができ、居宅のケアマネに繋げて最期を在宅で看取られた。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ感染予防の為、今までできていた行事や外食ドライブ等、自粛せざるを得ない。ご家族との面会も制限し淋しい思いをしないように、今できる事、やりたい事を聞き、できるだけ寄り添えるようにしていた。11月頃より、近隣へのドライブを再開、車からは降りる事はできないが、外に出る楽しみがあり、皆楽しみにしている。表情も生き生きしている。	日常生活より利用者の思いや意向の把握に努めている。1日の初めにやりたいことを確認し、「(近隣)公園へ行きたい」など要望があるとすぐにスケジュールを調整し実行している。また昨年11月、利用者の意向を汲み取り、コロナ感染予防対策を徹底し、事業所内でカジマヤー祝いに琉装を身につけ、家族と一緒に記念撮影を実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者に、ご家族からの生活歴や趣味等を聞く、また、日々の生活の中で、ご本人との会話中に聞き出しながら職員間で共有できるようにしたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムが違う為、できるだけ、ご本人のペースに合わせて、ケアできるように努めている。また、個別の行動、排泄チェック表を使用し、職員が把握しケアできるようにしている。不穏状態、落ち着きがない、入居者に対して、職員同志、対応を考えたり、そっと見守るようにとケアの仕方を相談している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者担当の職員が中心となって現在の様子や状態、今できる事やできそうな事、取り入れたい事を見つけ職員全員、ご家族と相談し3か月に1回モニタリングを行う事でケアプランに繁栄できている。また、担当職員から検討したい事があれば、カンファレンスを通して確認しモニタリングして行くことが出来る	介護支援専門員を中心に、定例ミーティングにて3か月に1回モニタリングや週1回、検討の必要性に応じて気付いた職員を中心にケアカンファレンスの実施をしている。職員は居室担当の役割や意義を理解した上で、日頃より気づきを意識し、利用者の課題やケアの在り方を介護支援専門員や多職種間で情報共有し、より良い暮らしの支援に向け、見直し取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、支援経過への記録で職員全員が把握しケアする事が出来ている。また、日々のケアチェックを付ける事で、モニタリングする事が出来、ケアプランの見直しを行う事が出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で、面会を制限し会えない時期が続いていた。10月頃よりタブレットを利用しビデオ通話を行う事でお互いの顔が見れてとても喜んでもらっている。また、県外や離島で遠く離れているご家族とも連絡が取れるので、ホームでの日々の様子や状態を伝えることが出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域との関わり、ゆんたく喫茶や包括での取り組みへの参加もできなかった。コロナが収束、落ち着いたら、インフォーマルなサービスを把握し一緒に参加できる所があるか情報を集める、また、ホームで取り組んでいた「ゆんたく喫茶」の再開も検討して行きたい		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他科受診の方へは、ホームでの様子や状態を介護情報提供書を記入し主治医よりコメント、指示を頂いている。コロナ禍で、感染予防の為、薬のみ(ご家族だけ)の受診になることが多い為、しっかりホームでの様子や状態、情報を記入しご家族にも、その旨を伝えるようにしている。訪問診療を利用されている入居者は、ホワイトボードを活用し薬や外用薬等の残等、報告している。また、ご家族へ診療内容をタブレットを活用し報告し、ご家族からの要望等を伝えている。	入居前にかかりつけ医の継続について、本人及び家族と相談の上希望を重視している。現在、6人が名嘉村クリニックの訪問診療を受診、3人が以前からのかかりつけ医の受診となっている。他科受診の際は、「介護情報提供書」を記入し家族が対応しているが、管理者やケアマネ、時には担当職員が同行する事もある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護ステーション名嘉村を利用し、健康チェックを行っている。また、短時間のパートで看護師(1人)がいる為、一人一人の健康状態の相談がしやすく、特に看取り時期になると介護職員が安心し、落ち着いてケアができるように常にアドバイスしてもらえ、とても心強い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ長期入院にならないように、ご家族、主治医、相談員と連携を取り、ご本人の体調、回復、治療が終了のめどが出たらいつでも退院、受け入れができるようにしている。退院時はカンファレンスを行い、治療経過、今後のケア対応方法をしっかり主治医から聞き出しケアに取り組み再発防止につなげる		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前指定書を記入してもらっているが、重度化、看取りになった段階で再確認、見直すことは可能だと伝えている。重度化、看取りになった場合は、ご家族、主治医、訪問看護と今後の方針を話し合い、常に連携をとるようにしている。また、治療方針を主治医より伝えてもらい、今後のケアの仕方や今後どのような状態になっていくのか、その都度カンファレンスを持ち、ご家族と共に取り組んでいる。看取りを希望されたご家族より最期は自宅で過ごしたい、過ごさせたい、ご本人も望んでいたとのこと最期は、自宅で看取りをおこなうことができた	入居時より本人、家族との信頼関係構築を重視し、施設の方針を丁寧に説明した上で「事前指定書」を記入してもらい、延命治療についての意向確認などを行っている。状態変化があった場合は医師、看護師と医療連携を図り、医師から家族に説明を行い「看取り介護に関する説明と同意書」を得ている。終末期は、家族に寄り添い夜間の宿泊も対応できる様に心掛けている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット、事故報告書を職員全員、周知しヒヤリハットで止められるように、その都度、カンファレンスを持ち事故に至らないようにしている。急変時に備え、ケアプランの見直し時または面会時など会話の中でご家族、ご本人に対応方法をどうするか？を聞き、職員が慌てないように対応している	ヒヤリハット報告書、医療事故報告書を全員で周知し、その都度カンファレンスを持ち対策を検討している。運営推進会議議事録に於いても委員より転倒事故についての質問等もあり、今後の対策、事故発生時の職員の初期対応、応急手当など実践力を身に付ける研修を期待します。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	自主避難訓練を年に2回行っている。コロナ禍の為、近隣が参加しての訓練は行うことができなかったが、協力願いは常にしている。火災通報連動スイッチ設置。コロナ感染予防、感染者の対応、濃厚接触者の対応方法など保健所や厚生労働省からの指示やアドバイスを受けて蔓延防止に努めることができた。	コロナ禍ではあるが、新人職員を中心に夜間想定避難訓練を事業所のみで行っている。但し、日中の訓練は届出が確認できず、自主訓練に留まっている。自動火災通報装置が連動され火災通報の手順をもとに訓練が行われ、備蓄リストは担当を決めて作成し、消費期限の管理を行い、ローリングストックで無駄なく日頃の献立に組み込む工夫がなされている。	昼夜を想定した年2回の避難訓練の届出、実施報告書が確認できないため、届出書等の書類整備の徹底を期待します。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けに努め、それを職員がチームとなりできる限り統一した対応、ケアを行い安心感を与えるようにしている。常にチームで情報を把握し寄り添うケアを心がけている	利用者の人格を尊重し、常日頃から本人の意向確認を行うようにしている。利用者3人を職員2人で担当し情報共有がうまくいかない事もあるが、申し送りノート等を利用して寄り添うケアを心掛けている。スピーチロックなどは新人研修時や職員主催の勉強会で取り上げる等、声掛けや話し方に配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のペースに合わせ希望や意志確認を行う様、心がけている。耳の聞こえにくい入居者に対しては、ホワイトボードに活字として示し疎通を図りその人の声を聞くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何気ない会話の中からも、その日の気分、希望などを聞き行動するようにしている。常にその方のペースに保ち心地よい雰囲気作りに努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面時には、鏡に映ったご自身の身だしなみの支度を一緒に行っている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調にもよるが、基本五感を意識し食事提供に努めている。食事(朝昼夕)の出来上がりが部屋中に香りとしてたどよい食欲UPにもつながる。食事の出来上がる工程も対面キッチンの為、可能で作りながら調理している人とも会話できる。野菜を切ったり、食事を皿に盛りつけたり、職員と一緒にやっている	職員からの希望で、7~8年前から調理担当職員2名を採用し、職員が介護に専念できるように配慮している。対面式キッチンで調理の匂いに食欲が増し、温かい食事をすぐに頂ける環境が整備されている。調理師資格保持者で定年後に昼食・夕食の調理を交代で担当している。朝食は夜勤者が準備し、おやつも利用者と一緒に出来る事を手伝いながら、食事を楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を食事チェック表を活用している一人一人の食事形態、量、好みなどを把握し提供している。食事が進まない場合は、油みそ等を作り食事が進むように工夫をしている。また、苦手な食材が出た場合は、他の食材を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、うまく行えない場合は職員がケアを行っている。重度の方は、スポンジブラシや口腔内用ウエットティッシュで食物残差を取り除きケアをおこなっている。訪問歯科を利用し口腔ケアの指導を受けることができる		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し排泄チェック表を活用し必要時、定時誘導を行っている。重度の方は、パット交換を行っている。綿パンツと尿取りパットで対応し、夜間帯は尿量の多いパットへ変更し対応している。自分で排泄が可能な方は、ご本人が希望し安心して過ごせるようにリハビリパンツを使用している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、先回り支援を行っている。介護度が高くなると当然にオムツを利用する概念を無くし、布パンツにパットを利用するなどの工夫や自立されている方にもトイレが分かりやすいように大きく表示をし、見守り支援をしている。また、便秘予防の為に管理栄養士の指導の下、毎朝、ヨーグルトを提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供 排泄チェック表に最終排便から何日経ったかカウントできるように記入している。 予防として運動をおこなったり、毎食時の水分を促し、必要時には便秘薬を主治医、訪問看護師と相談しながら調整している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の意志や体調を考慮しながら入浴支援を行っている。入浴チェック表を活用し長期にわたり入浴拒否があった場合は、清拭を行ったり試行錯誤を行い入浴を促している	殆どの利用者が週2~3回のシャワー浴を行っている。本人の希望や体調管理を行いながら、支援しているが、入浴拒否がある場合は、無理強いないで清拭を行うなど、本人の意思を尊重した対応をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者の申し送りで眠れなかった方の情報を聞いて、午前中様子を見ながら休息してもらい午後レク活動を充実させ生活のリズムを整える。休んでもらったり、個々に合わせた対応を行っている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は相勤同士、名前や日付等の確認を声に出しておこなっています。新薬、薬の変更時には、体調や表情等の様子を見えています。薬の事わからない時は薬剤師に聞いたり、相談もできている	8人の利用者が「居宅療養管理指導」を利用し、薬剤師が毎週火曜日に来所し職員と一緒に薬の管理を行っている。地域の小祿薬局との関係性は良好で薬の効果や用法なども説明されている。ビニールの内服ポケットに一包化された薬を仕分けしているが、飲み忘れや誤薬が発生している。服薬マニュアルは整備されているが、職員のチェック体制の強化を希望する。	誤薬や飲み忘れなど、気づいた時点で速やかに訪問看護師に連絡相談を行い、その後の対応を行っている。ヒヤリハット報告書、医療事故報告書も記載され、安全管理委員会で対応を話し合っているが、相勤同士の更なるチェック体制などの見直しを希望する。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のためドライブの機会が減っています。ホームにて介護職と利用者だけのイベントを感染対策をたて行っています。一緒に掃除をしたり、洗濯物たたみ、片付けをお話しながら行っています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策のため、外出は控えている。緊急事態発令中はアイパッドでビデオ通話を行っている。会話の中からご本人の思いを引き出す努力をしている。ユウチュウブでその場所を見つけ見て思い出懐かしい話で盛り上がる。	コロナウイルスの緊急事態宣言中も感染対策を取りながら出来るだけ、1週間に1度のドライブを継続している。日当たりの良いテラスや庭でお茶会やおやつを楽しんだり、レク好きの職員が中心となってチラシで作成した棒を使って行う棒体操やゲームなどで身体を動かしてストレス発散と筋力の低下を防いでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持している入居者はいないが、必要がある場合はご家族と相談をして小遣い程度の管理は行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームでの様子(写真)やお知らせを毎月「ひやみかちやいびーん」新聞を郵送している。コロナ禍で面会を制限している為、タブレットを利用してテレビ電話で会話やご家族の顔が見れ入居者もご家族も喜んでいる。また、日々の写真や消耗品の請求、連絡事項などもタブレットを活用することでご家族との連絡が取りやすくなっている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月2回、生け花をし、季節の草花を楽しんでいる。月ごとの行事(桜・クリスマスなど)の飾り付けを入居者とともにに行い季節間を取り入れている。トイレでは、スリッパの履き替えの際に転倒のリスクが高いため、マットを敷き安全に安心しては入れるようにしている。	玄関には、重要事項説明書などが掲示され、運営推進会議議事録、外部評価調査結果も閲覧できるように整備されている。共用部分はバリアフリーで日当たりも良く、リビングで寛ぐ利用者や程良い音量の民謡に合わせて、楽し気に歌う利用者の声も聞こえた。歌好きな利用者の為に室内換気、除菌を徹底し距離を取りながら、カラオケレクを取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の決まった席に座りテレビを楽しむ、他入居者と会話を楽しむ方やリクライニングチェアでくつろぎ過ごすことができている。また、食後は仮眠をとったりと一人一人のペースに合わせて過ごしてもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談し居室の整理整頓を行っている。ご家族や思い出の写真をご本人が見やすい場所に飾ったり、手に取って見たいものなどは、取りやすい位置に置くなど工夫している	入居の際に、一人ひとりの好みや馴染みの物を家族や利用者と相談して持ち込んでいる。コロナウイルス感染対策の為、家族が居室に入る事は難しいが、一時的に収束化した際は、感染対策を取りながら居室での面会を実践するなど利用者本位の支援を心掛けている。月2回の生け花教室での作品を自室に飾り癒しの効果やストレス軽減を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっているが、全盲の方がいる為、できるだけ歩くスペースには物を置かない等、安全に歩けるように環境整備を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	服薬に関する誤薬等をなくすために、内服時に3回確認を行うことを実践しているがヒヤリハット、事故報告書が多く発生している。	誤薬をなくす。(誤薬による事故報告書を0にすること)	・服薬時には相勤同士の声掛けを徹底する ・トリプル確認を怠らない。 ・服薬時は、別の事をしない、考えない。 ・誤薬に対する対策を徹底的に実践すること。(全体ミーティングで1ヶ月毎に評価を行う)	3ヶ月
2	34	事故発生時の備えについて……令和3年度の事故報告書の結果、転倒事故が20件起きている。1か月に1回以上転倒事故が起きていることになる。新規入居者が3人いたことが原因として考えられるが、病院受診には至っていない。主に、1人の方に集中していることから介護職員はそのことに意識して介護を行う必要がある	転倒事故「0」を目指す。	・転倒事故による検討会議を行い、これまでの対策を見直す。 ・周知徹底を行い、まず、1ヶ月間「0」の状態にすること。さらに1ヶ月「0」と管理者、ケアマネ、介護主任を初め全職員が意識して実践できるようにする。(全体ミーティングで1ヶ月毎に評価を行う)	6ヶ月
3	35	防災訓練の届け出がされていない。	消防署への届け出を必ず行う	年2回の消防訓練を行う時は計画書を作成した時に必ず届出を行う。防火管理者以外の職員にも声をかけてもらい、後回しにならないようにする。	その都度
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。